

科目名	言語教育デザイン論特講	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>昨今、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）の広がり、学習者主体の教育へのパラダイムシフト、学習者の多様性などの影響を受け、外国語教育の方法が大きく変容しつつある。その中で、どのようにコースデザインを行えばいいのかを考察する。まずは、世界中の外国語教育に影響を及ぼしている CEFR の理念について理解を深め、実践例を学ぶ。その上で、教育現場に適応する方法を考察する。次に、言語教育デザインを考える際に重要な評価を取り上げ、現在広まりつつある学習者主体の評価や従来の評価の枠組みを超えた代替評価の考え方と実践例を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 言語教育デザインを適切にかつ効果的に行うことができるようになるために、CEFR の理念、各種代替評価の特徴を正しく理解し、教育現場に適応する場合はどのようにするべきか判断できる能力を身につける。</p> <p>【行動目標（SB0s）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CEFR の理念を正しく理解する。 ・ CEFR の活用・適用例について正しく評価できる。 ・ アセスメントの歴史と代替評価を正しく理解する。 ・ 代替評価を理論的に正しく理解し、コースデザインに応用できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材と関連文献を熟読する。 ・ レポートを完成させるために、文献調査のほか、遂行、書き直し作業を行う。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ manaba folio を利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る ・ manaba folio 上で、ピア・レスポンス活動を行う。 <p>【学修方略（LS）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材と関連文献を熟読し、レポートを執筆する。 ・ レポートを教員の指示により修正する。 ・ ピア・レスポンスで得られた意見をレポートに反映させる。 ・ 他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。 ・ 他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート課題1 締切：6月末 ・ レポート課題2 締切：9月課題提出締切日 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート課題1 締切：11月末 ・ レポート課題2 締切：1月課題提出締切日 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	形式（構成、引用の仕方、適切な表現）、内容（論旨の明快さ、独創性、課題把握の適切性）
	平常評価	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<p>教師によるフィードバック、ピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められるので、ピア・レスポンスへの参加、余裕のある草稿送付を心がけること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： キース・モロウ 教材名： 『ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）から学ぶ英語教育』（研究社，2013） ISBN： 978-4-327-41083-4 3,200 円+税
	本書は、キース・モロウ（Keith Morrow）編纂の <i>Insights from the Common European Framework</i> を日本語に訳したものである。原著に「英語教育」の文言がないように、CEFR の考え方は日本語教育を含む外国語教育全般に影響力を持っている。本書は、CEFR の現場への導入の意義、実践上の問題点や課題が扱われている。
参考図書	J. L. M. トリム『外国語教育Ⅱ外国語の学習，教授，評価のためのヨーロッパ共通参照枠』追補版（朝日出版社，2014）ISBN： 978-4255007953 各 2,800 円+税 欧州評議会言語政策局『言語の多様性から複言語教育へ—ヨーロッパ言語教育政策策定ガイド』（くろしお出版，2016）ISBN： 978-4874246849 各 2,200 円+税
履修上のポイント	ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）は、教育現場においても、大規模テストにおいても、言語教育に大きな影響を与えているので、理念をしっかりと学んでほしい。その上でどのように活用できるか考察すること。
レポート課題 1	第 1 章から第 4 章を読み、CEFR の理念を整理し、日本や日本語に応用する場合どのような利点があるか、どのような点が問題になるか自身の考えを論じる。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 日本や日本語に応用することを考える際、日本国内だけではなく、国外の教育場面についても考えること。日本語教育が専門ではない場合は、他言語に置き換えても可。
レポート課題 2	日本語教育における CEFR の活用・適用例に関する記事・論文 1～2 編読み、CEFR の理念に沿うものになっているか、第 5 章の活用例との相違点はどのようなものかを分析し、論じる。（4,000 字～5,000 字） 留意点： CEFR の活用例に関する記事・論文が見つからない場合は CEFR に基づいて構築された「JF 日本語教育スタンダード」の適用例でも構わない。日本語教育が専門ではない場合は、他言語に置き換えても可。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 佐藤慎司・熊谷由理 教材名： 『アセスメントと日本語教育』（くろしお出版，2010） ISBN： 978-4-87424-491-3 2,800 円+税
	本書は、外国語教育におけるアセスメントの歴史と現在の流れを理論的に解説し、日本語教育における新しい試みとしての実践例を紹介している。具体的には、代替評価と呼ばれるピア評価、ポートフォリオ評価、対話的アセスメント、ジャーナル・アプローチなどが取り上げられている。
参考図書	市嶋典子『日本語教育における評価と「実践研究」』（ココ出版，2014） ISBN： 978-4-904595-43-5 各 3,600 円+税
履修上のポイント	学習者の多様化や学習観の変化に伴い、伝統的なアセスメントの限界が指摘され、新しいアセスメントの取り組みが多くなされている。基本教材 2 を通して、代替評価など新しい評価の歴史的な位置づけと理論を学んでほしい。
レポート課題 1	理論編を読み、アセスメントの歴史と代替評価（代替アセスメント）が生まれた背景を整理し、代替評価の可能性や考えうる実施上の弊害などについて自身の考えを論じる。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 代替評価が生まれた背景を把握すること。
レポート課題 2	実践編（第 4 章から第 9 章）を読み、共通点と相違点を整理した上で、いずれか 1 例を選び、自分が実践する場合どのように応用できるかを論じる。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 対象者（教育機関，レベル，科目種類）を明確にして論じること。